

CHUOH TRY+ANGLE

知っ得通信

2022年10月20日発行 編集・発行：中央教育研究所(株) 〒730-0013 広島市中区八丁堀15-6 <https://www.chuoh-kyouiku.co.jp>



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」 vol.128

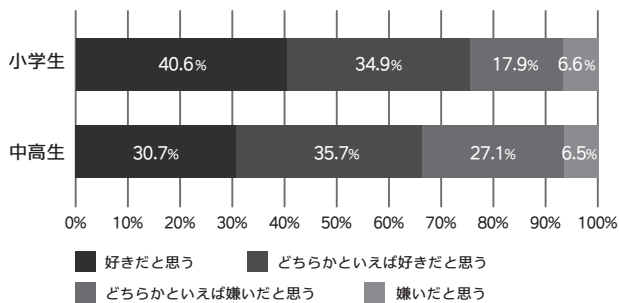
<小学生に読書感想文を定期的にかかせよう！>

今回は、「小中高生の読書に関する調査」(株式会社栄光の調査)を使って、私ども MBA が創業以来指導してきた「読者感想文・発表会」というイベントがどのくらい価値の高いものかを説明します。データの使い方も参考にしてください。

この調査は、「子どもの読書の好き嫌い」と文章を書くことの好き嫌いの関係性」についての調査です。この調査は、2022年1月12日から1月26日に、小学1年生から高校3年生の子どもを持つ保護者506名を対象に行われました。

「子どもは、読書が好きか」という質問への保護者の回答です。

■子どもは、読書が好きだと思いますか



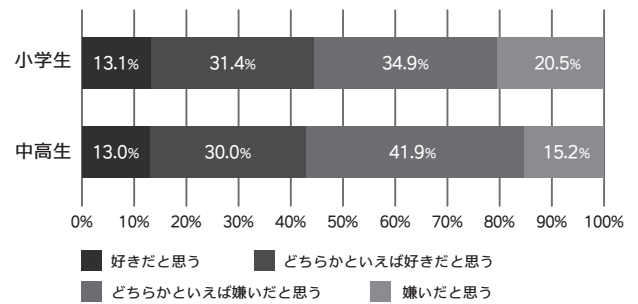
小学生では、「読書が好きだと思う」が40.6%、「どちらかといえば読書が好きだと思う」が34.9%、「どちらかといえば読書が嫌いだと思う」が17.9%、「子どもは読書が嫌いだと思う」が6.6%でした。

一方で、中高生では、「読書が好きだと思う」が30.7%、「どちらかといえば読書が好きだと思う」が35.7%、「どちらかといえば読書が嫌いだと思う」が27.1%、「子どもは読書が嫌いだと思う」が6.5%でした。

私たちは、きっと保護者が、子どもは読書が嫌いだと思っているのではないかと思いがちですが、そうでもないのです。保護者は「子どもは読書が(どちらかといえば)好きだと思う」割合は、小学生では75.5%、中高生では66.4%もあるのですから。

では、次の質問です。

■子どもは、文章を書くのが好きだと思いますか

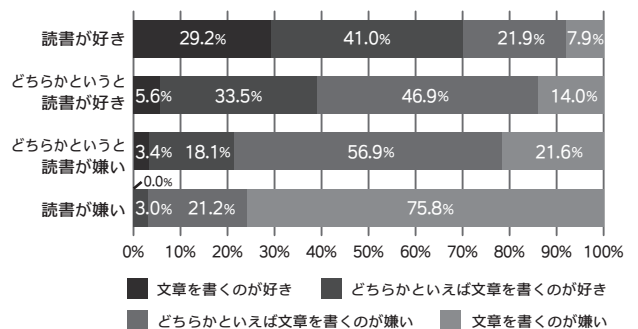


「子どもは、文章を書くのが好きか」という質問への保護者の回答は、小学生では、「文章を書くのが好きだと思う」が13.1%、「どちらかといえば文章を書くのが好きだと思う」が31.4%、「どちらかといえば文章を書くのが嫌いだと思う」が34.9%、「文章を書くのが嫌いだと思う」が20.5%でした。

中高生においては、「文章を書くのが好きだと思う」が13.0%、「どちらかといえば文章を書くのが好きだと思う」が30.0%、「どちらかといえば文章を書くのが嫌いだと思う」が41.9%、「文章を書くのが嫌いだと思う」が15.2%でした。「読書」と比較すると、「文章を書くこと」については、全体的に保護者は否定的に見ています。

最後に、「読書と文章を書くことの相関」の質問です。

■読書と文章を書くことの相関



中土井鉄信の「地域一番の繁盛塾になるための最強法則」

vol.128

まず、「子どもは読書が好きだと思う」と回答した層(小中高生)から見ていきます。その中で「文章を書くのが好きだと思う」と回答した割合は29.2%でした。次いで、「どちらかと言えば文章を書くのが好きだと思う」が41.0%、「どちらかと言えば文章を書くのが嫌いだと思う」が21.9%、「文章を書くのが嫌いだと思う」が7.9%という結果でした。「文章を書くのが(どちらかと言えば)好きだと思う」の回答の割合は70.2%と高い結果でした。ここが、非常に重要なデータです。

続いて「子どもはどちらかと言えば読書が好きだと思う」の割合を見てみると、「文章を書くのが好きだと思う」が5.6%、「どちらかと言えば文章を書くのが好きだと思う」が33.5%、「どちらかと言えば文章を書くのが嫌いだと思う」が46.9%、「文章を書くのが嫌いだと思う」が14.0%でした。約40%近くの保護者が、文書を書くことが子どもは好きだろうと思っています。ここまでのデータは、読書が好きという軸での、文章を書くことに対する回答でした。次からは、読書が嫌いという軸での、文章を書くことへの回答です。

「子どもはどちらかと言えば読書が嫌いだと思う」の項目では、「文章を書くのが好きだと思う」が3.4%、「どちらかと言えば文章を書くのが好きだと思う」が18.1%、「どちらかと言えば文章を書くのが嫌いだと思う」が56.9%、「文章を書くのが嫌いだと思う」が21.6%でした。文章を書くことが好きな子どもは20%強しかいなくなります(保護者の見立てですが)。

「子どもは読書が嫌いだと思う」の項目では、「文章を書くのが好きだと思う」が0%、「どちらかと言えば文章を書くのが好きだと思う」が3.0%、「どちらかと言えば文章を書くのが嫌いだと思う」が21.2%、「文章を書くのが嫌いだと思う」が75.8%でした。

結論として、読書嫌いは、文章を書くことも嫌いなのです。

このデータを見ただけでも読書感想文を定期的にかくことの意義はわかると思いますが、それをさらに保護者に深く理解してもらうために、このデータと学習指導要領の変化や大学受験の変化を活用するのです。学習指導要領が変わり、記述力・表現力が重要視されるようになったこと。大学受験でも小論文や自己紹介文の重要性が高

まってきたこと。このような状況変化と合わせて、先のデータを意味づけるのです。

他人の書いた文章や資料を読み込んで、自分自身の言葉でその意見やデータを分析し、結論付けるということが、これからの「生きる力」であると言われるのですから、読書を好きになって、文章を書くことに抵抗感がなくなっていけば、非常に大きなアドバンテージが取れるのだと。だから、私の塾では、読書感想文のイベントを定期的に行っているのだと。そういうアピールをするのです。

読者好きが文章を書くのが好きなのです。塾生には、読書好きになってもらいたい、そういう思いでこのイベントを行っています。こんな感じです。

色々なデータを用いて、皆さんのやっていることの価値の高さを保護者に伝えていってください。

【編集後記】

■ JEC 学習塾経営セミナー ■

「2023年から飛躍するための始めの一步」

10/30(日)大阪 11/6(日)東京の2会場で開催!

中土井が代表理事を務める日本教育コンサルタント協会(JEC)主催の、学習塾経営者・教室責任者向けのセミナーです。

=====
中土井 vs 5人の待コンサル!

あなたは誰の提言を経営に活かしますか?

=====
前回好評だった講演+パネルディスカッション形式そのままに、今回は講演を3つに増やし、ボリュームアップした内容をお届けします!もちろん、恒例の塾経営相談コーナーもご用意です。

出自も違う、会社も違う、教育に対する思想も違う、そんな個性あふれるコンサルタント陣の講演やパネルディスカッションから、自塾に取り入れられるものを峻別、厳選なさってください。きっと、貴塾をさらに良くするヒントがあるはずです。

【講演】

中土井 鉄信氏 : (資) マネジメント・ブレイン・アソシエイツ 代表
山口 博士氏 : (株) ワイズコンサルティング 代表コンサルタント
長澤 大輔氏 : (株) トリプルウィン 代表取締役

【パネリスト】

中土井 鉄信氏 : (資) マネジメント・ブレイン・アソシエイツ 代表
柴山 健太郎氏 : (株) Freewill トータルエデュケーション 代表取締役
山口 博士氏 : (株) ワイズコンサルティング 代表コンサルタント
越智 正明氏 : 学習塾 集客加速術コンサルタント クローバー
長澤 大輔氏 : (株) TripleWin 代表取締役
小倉 政彦氏 : クリエイティブアカデミー株式会社 代表取締役

▼ 詳しいご案内とお申し込みはこちらから ▼
<https://kyoiku-saisei.com/JECseminar/>

数字でみる学習塾経営・業界のトレンド vol.92

オンライン英会話サービスを展開する（株）レアジョブが面白い調査を行っているのでご紹介しましょう。

■英語力からみる年代別年収比較（万円）

年代	A2 以下	B1 以上
20代	516.66	516.66
30代	617.64	716.98
40代	668.29	766.07
50代	702.85	814.08

CEFR（セフアール）A2 以下の英語力の持ち主と B1 以上の持ち主との年代別年収比較です。数字の単位は万円。

調査日程：2022 年 6 月 6 日、7 月 4 日。

有効回答数：320 名（インターネット調査）

ご存じだと思いますが、CEFR とは英語をはじめとした外国語の習熟度や運用能力を同一の基準で評価する国際指標のこと。読む、聞く、書く、話すの 4 技能の習熟度や運用能力を、基礎レベルの「A1」から最高レベルの「C2」まで 6 段階に分けて評価しています。A2 はおおそ英検準 2 級レベル、B1 は英検 2 級の上位レベルに相当するとされています。

ご覧のように A2 以下と B1 以上とでは、30 代、40 代で約 100 万円、50 代では 110 万円の差が出ています。

30 歳から 60 歳までこれが 30 年間続くと合計 3,000 万円。都心では無理でしょうが、地方都市なら戸建て住宅が手に入る額です。人生設計も大きく変わっていくことでしょう。英語ができるに越したことはありませんね。

では、B1 レベルの英語力を獲得するには一体、どのくらい勉強すればよいのでしょうか。

あまり知られていない話ですが、アメリカで外交官などを養成する国務省の外務職員局が、英語を母語とする者が外国語を習得するのにかかる期間を算出しています。

それによると、英語を母国語とする者が日本語の C1 レベルを習得するのに要する期間は、生徒数 6 人以下のクラスで週 25 時間の授業を受け、さらに毎日 3 ～ 4 時間の個人的な学習を続けて 88 週間、つまり約 2 年間、合計 3,800 時間ほどかかるということです。

逆もまた真なりですので、われわれ日本語を母語とする者がそのレベルの英語力を獲得するには同じだけの時間が必要と考えてもよいと思われます。

ただし、外務職員局で外国語を学ぶ者はかなりの教養の持ち主で、年齢は 40 歳前後、習得レベルは C1。例えば日本人の子どもたちが B1 レベルを目指して勉強するのは大きな違いがあります。

日本人の子どもたちの場合は、仮に外務職員局の半分の時間で済むとして、それでも 2,000 時間程度は必要でしょう。

■学校で学習する時間

学年	時数
小学校3年・4年	計 70 時数
小学校5年・6年	計 140 時数
中学校	計 420 時数
高等学校(標準)	計 595 時数

周知のように、学校で学習する時間は上記の合計 1,225 時間（高校は学科等によって大きく異なる場合がある）ですから学校だけでは全く足りません。

中学校と高校とを通じて授業ごとに毎回、予習復習を 1 時間ほどやってようやくといったところではないでしょうか。

ただし私見ですが、読む、書くはそれでなんとかかなるとして、聞く、話すについてはそれなりの環境が整っていないとちよつと難しいのではという気がしています。

ところで、昨年 12 月に文科省が実施した「英語教育実施状況調査」の結果がこの 5 月に公表されています。同調査によると、全国の高 3 生のうち「CEFR A2 レベル以上を取得している生徒」と「A2 レベルに相当またはそれ以上の英語力を有すると思われる生徒」の割合は 46.1% でした。

都道府県別でもっとも割合が高いのは福井県の 59.6%。富山県の 59.3%、静岡県の 54.4%、秋田県の 53.7%、兵庫県の 53.1% がこれに続いています。

反対にもっとも低いのは福井県の 36.3%。以下低い順に鹿児島県の 37.1%、茨城県の 38.3%、宮崎県の 38.7%、愛知県県の 40.0%。

A2 レベルさえこの程度の割合ですから、大半が B1 レベルに到達するまでにはまだまだ道遠しというところですね。

蛇足ですが、個人的な思いを申し上げれば、日本は大学・大学院まで母国語で支障なく教育・研究が行われている国です。さらに、ICT 技術の進化をみていると、まもなく翻訳・通訳は機械でこと足る時代がやってくるでしょう。ならば、日本の子どもたちの誰もが同じように、そこまで時間をかけて英語を学習する必要があるのかと考えています。

もちろん、英語教育、少なくとも英語の基礎教育に反対というわけではありません。

が、それよりも一定数の子どもたちは例えば理数教科に、あるいは国語・社会に、じっくり時間をかけて学んだ方が多様性という観点からも好ましく、この国や世界の国々の豊かな社会づくりに役立つのではないかと考えています。

皆さんはどう思いますか。